

真生会富山病院を受診された患者の皆さま

当院は下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	鼻涙管閉塞の閉塞距離の定量化への挑戦と閉塞距離と手術成績の検討
当院の研究責任者(所属)	植田 芳樹 (真生会富山病院 アイセンター)
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	涙道閉塞は、主に総涙小管より手前の閉塞と、鼻涙管以降の閉塞に分けられます。前者には涙道内腔再建術、後者には涙嚢鼻腔吻合術が行われることが一般的です。 近年、涙道内視鏡の進歩にともない、鼻涙管閉塞にも涙道内腔再建術が行われるようになり、ある程度良好な成績が報告されています。成績を悪くする要因として、涙嚢炎の存在、長距離の鼻涙管閉塞がわかっています。これまで、鼻涙管閉塞を定量的に測定することはできませんでした。今回目盛りのついた涙道内視鏡を開発し、鼻涙管閉塞の閉塞距離の定量化を行うことができるようになりました。 そこで、目盛り付き涙道内視鏡を用いて、鼻涙管閉塞の距離を定量化し、距離ごとの涙道内腔再建術の術後成績をまとめることを目的とします。世界で初めての試みであり、鼻涙管閉塞の涙道内腔再建術の発展に寄与するものと考えます。
調査データの該当期間	研究実施期間:承認日から2026年12月31日 調査データの該当期間:2023年1月1日から2025年5月31日
研究の方法(対象となる方)	当院で鼻涙管閉塞に対して目盛り付き涙道内視鏡を用いた涙道内腔再建術を施行した患者さんです。年齢、性別、過去の涙道手術歴などは問いません。
研究の方法(使用する情報)	背景として、年齢、性別、治療眼の左右の情報を使用します。 また、術中所見として、鼻涙管の閉塞部位、閉塞部位数、閉塞距離の情報を集めます。 術後の情報として、手術前、手術後2週間、2か月、3か月の症状(治癒、改善、不変)、通水検査結果(通過良好、逆流あり、通過せず)、綿糸法、tear meniscus heightによる涙液量を使用します。
試料／情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	使用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源(利益相反)	医療法人真生会から支給される学術奨励金を利用して実施します。
相談・問い合わせ・苦情	電話:0766-52-6979 担当者: 植田 芳樹 (医師)
備考	